前年度並みの志願者数となった慶大。各大学で入試改革が進む大学が目立つ中、ほとんど入試制度を変えなかったことが功を奏した。特に慶大は、「成績上位層からの支持を受けているのが大きい」のだと駿台教育研究所の石原賢一進学情報部長は分析する。上智大や青山学院大など、共通テスト導入により入試方式が変わった大学は、軒並み志願者数の減少が目立つ。

今年度は入試制度が大きく変わる予定であったため、昨年度受験生の間では浪人を回避する傾向が見られた。実際、今年度から施行された共通テストでは浪人生が前年度比で約2割減少した。

緊急事態宣言下から始まった今年度の大学受験勉強。時間に余裕のある浪人生と比べ、限られた時間の中で勉強しなければならない現役生が不利だと思われがちだが、今年は実態が違うのだと石原氏は語る。

　「成績上位層の学生は、部活や学校行事のない自粛期間に集中して勉強できた学生が多い。一方で浪人生は、学習姿勢を矯正する夏前が勝負となるが、その大切な時期に予備校が閉まっていた。実は浪人生の出遅れの影響の方が大きい」

　このことは結果として如実に現れている。秋以降の模試では、現役生が浪人生を上回る強さを見せる事態となっているが、このようなことは「ここ数十年では初めてのこと」だと石原氏は

　「難関大を目指す現役生に勉強の遅れはほとんど見られない。合格率は間違いなく現役生が浪人生を大きく上回るだろう」

　慶大は2月10日から19日まで一般選抜が行われる。